

光量、足りてる？



ヘッドライト樹脂補修用スプレー

ヘッドライト リフォーマー

高耐久
長期間保護

プライマーレス

どこでも簡単
スプレー式

今までに無い、厚い塗膜がガッチリ守る！
奥行きのある輝きを実現！！

従来のコーティング系保護剤と異なり、特殊樹脂塗料の強い皮膜で長期間ヘッドライトのポリカーボネイド樹脂を守ります。ポリカーボネイドへの塗装は従来、下地塗りを必要としていましたが、ヘッドライトリフォーマーは下地塗り不要です。さらに2液性塗料を1本でスプレーできるので専用の設備や機材を必要としません。

商品名	ヘッドライトリフォーマースプレー320
品番	EC001
JAN	4975960121132
入数	20
重量	413g
H×W×D (mm)	210×72×72

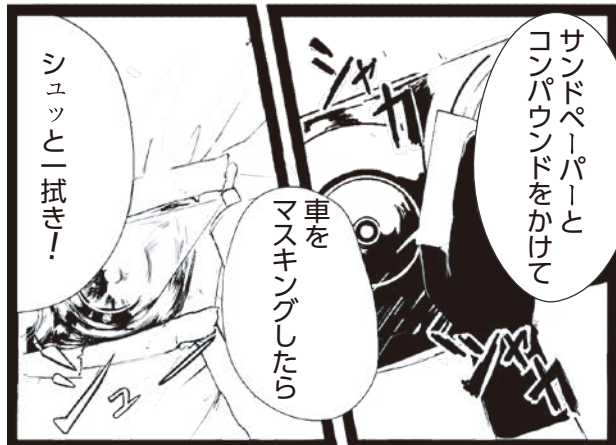


妹よ…
明日車検なのに
ヘッドライトが…

どうしたの!?

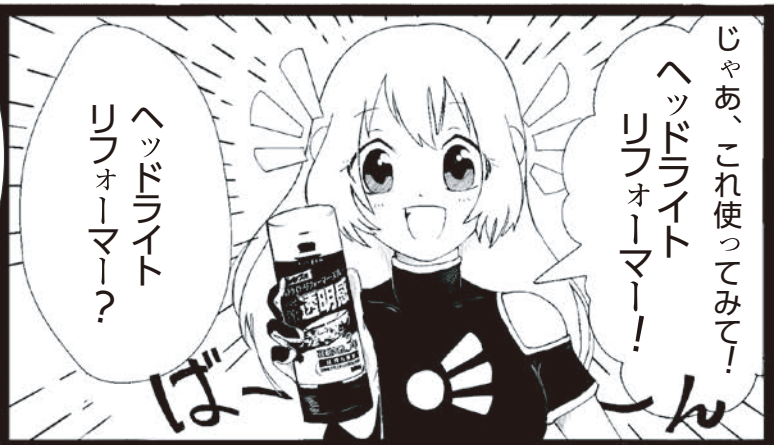


お兄ちゃんの声!?



車を
マスキングしたら

サンドペーパーと
コンパウンドをかけて



じゃあ、これ使ってみて!
ヘッドライト
リフォーマー!

ヘッドライト
リフォーマー?



ほら!
これで車検も安心だよ
お兄ちゃん!

新車の時同様の強い皮膜! 今までにない長期耐久性!!

ヘッドライトリフォーマーはこれ一本でポリカーボネイド樹脂のハードコートを補修することが可能です。コーティング剤の耐久性や光沢に満足ができなかった一般ユーザーや車検整備業の方に最適です。

◀ 詳しくは表面へ



まるで
新車のようだ…

お兄ちゃんまで
キレイになってる…

ヘッドライト・リフォーマーの 達人「アカリちゃん」からのアドバイス

- ヘッドライト・リフォーマーは、強固な塗料です。注意してご使用下さい。
- 完全硬化後は、除去するには、サンドペーパー等で削り落とす以外方法がありません。

- 劣化が著しいレンズやひび割れがあるレンズには使用できません。作業前によく確認してください。
- 塗装前のコンパウンド仕上げには、ツヤだし成分（シリコン等）が入っていないコンパウンドをお使いください。
- 塗装時に飛散した塗料の付着を避けるため、周囲との間隔は、できるだけ広く空けてください。
- ヘッドライトリフォーマーは、一度硬化すると新車時のヘッドライトコーティング塗料と同様に研磨する以外に除去する方法はありません！使用方法に従い、レンズをきれいに磨いてから、塗装してください。
- 硬化前であれば、ラッカーうすめ液等で除去することが可能です。ボディや器具等に付着した場合は硬化前に除去してください。ただし、**レンズの素材(ポリカーボネイト)は、大変に溶剤に弱い**ため、ラッカーうすめ液等による除去作業は絶対にしないでください。レンズの塗装を修正する場合は、完全硬化後に研磨してください。
- ヘッドライトリフォーマーは、一度に厚塗りしようとせずに、必ず「うすく塗って硬化を待つ」ことを数回繰り返してください。特に塗り始めは、塗装面との距離を離しぎみに、スプレーのキリがフワツとレンズにかかりムラなく曇る程度に薄く塗ります。乾燥時間を長め（気温 20℃以上の場合 10 分～20 分）に取り、確実に硬化させます。同じ作業を 3 回程度繰り返して表面を固めてしまいます。この時点ではレンズ表面が曇っていて透明感がなくてもムラなく全体的に同じように塗れていれば OK です。次に本塗装。透明になるまで 2～3 回（気温 20℃以上の場合 10 分～20 分間隔）に分けて、塗り重ねていきます。塗り重ねていくうちに光沢と透明度が増してきます。仕上げを焦る気持ちはわかりますが、厚塗りは『ヒビ割れ』の原因となりますのでしないでください。



ヘッドライトリフォーマー
作業工程の動画は
こちら →



冬季（低温時）の作業で気をつけること

- 気温が 5℃以下の場合には作業しないでください。
- 気温の低めの時（15℃以下程度）は、スプレーした後の乾燥時間を長め（30分～60分）に取って下さい。
- 気温が低めの時は、暖房等で作業場を温めるか、ヒーター等でレンズを人肌程度に温めながら作業することをおすすめします。レンズを温める場合には、人肌程度以上に温めすぎないようにご注意ください。
- 表面が硬化する前に露や霜等の水分が付着すると、白濁する恐れがあります。ご注意ください。

夏季（高温・多湿時）の使用で気をつけること

- 気温 35℃以上や湿度 85%以上の時には作業しないでください。
- 湿度が高い場合には、水分を吸って白濁する場合があります。

ヘッドライト・リフォーマー よくある質問

Q1. おおよその作業時間はどのくらいですか？

作業時間は、手作業の場合左右のレンズ両方の補修をして3～4時間程度が標準的です。（ただし、気温や湿度により乾燥時間は変わります）

Q2. 耐久性はどのくらいですか？

ヘッドライトリフォーマーは2液性樹脂塗料です。これは新車時のヘッドライトレンズに施されているハードコートとほぼ同等のものです。補修する場合、レンズ素材のポリカーボネイトの経年劣化状況に左右されますが、ヘッドライト・リフォーマーの皮膜だけであれば新車時に匹敵する強さがあります。

Q3. スプレーすれば、透明感が復元しますか？

ヘッドライト・リフォーマーはクリーナーではありません。レンズの白濁や黄変を取る効果は全くありません。サンドペーパー等で除去した後に、ヘッドライトリフォーマーをお使いください。

Q4. サンドペーパーは全部使わないとダメですか？

標準的な補修方法では、研磨作業はサンドペーパーの320番から始めます。白濁やくもりがごく軽度の場合はサンドペーパーの1000番から研磨します。詳しくは商品本体の使用説明をご覧ください。

Q5. 店頭で見かけるヘッドライト磨きとは違うのですか？

数多く販売されているヘッドライト磨き等はコーティング剤と呼ばれているものがほとんどです。ヘッドライト・リフォーマーはペイント（塗料）です。自動車のボディで考えて頂けるとわかりやすいと思います。日頃のメンテナンスではWAXやコーティング剤を使いますが、変色してしまったり、キズがひどい時には、補修用のペイントで補修します。ヘッドライトも同様です。ヘッドライト磨きで磨いても、またすぐに、くもってしまう場合などはヘッドライトリフォーマーによる補修が最適です。

Q6. ヘッドライトレンズをサンドペーパーで削って大丈夫ですか？

320番以降の番手のサンドペーパーであれば大丈夫です。標準的な補修方法では320番のサンドペーパーでレンズの白濁や黄変をきれいに取り除き、その後ペーパーの磨きキズを消すために、サンドペーパーの番手を細かくしながら、磨いていきます。磨き作業の仕上げにコンパウンドでほぼ透明にした上に、ヘッドライトリフォーマーで塗装します。ヘッドライトリフォーマーの膜厚は標準的な補修方法の場合25～40ミクロンとなりますので、磨きで残った微細なキズを埋めて「奥ゆきのある輝き」を取り戻します。

Q7. ヘッドライトリフォーマーで補修する時に必要なものはありますか？

サンドペーパー（320～2000番）、マスキングテープ、コンパウンド ノンシリコンタイプ（細目、極細）などが必要です。詳しくは商品本体の使用説明をご覧ください。

**新車の時同様の強い皮膜！
今までにない長期耐久性！！**

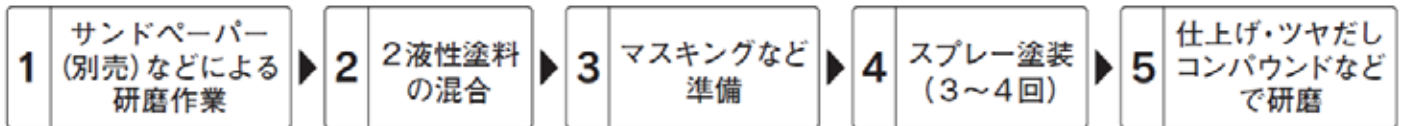
ヘッドライトリフォーマーはこれ一本でポリカーボネイト樹脂のハードコートを補修することが可能です。コーティング剤の耐久性や光沢に満足ができなかった一般ユーザーや車検整備業の方に最適です。



本格ヘッドライト樹脂レンズ補修塗料
ヘッドライト・リフォーマー・スプレー320

本商品は、劣化（黄ばみや白濁）したヘッドライト樹脂を研磨、除去した後、新車時同様のハードコートを施工するために開発された商品です。通常のツヤ出し剤や表面コート剤と**硬質塗料は研磨作業以外の除去はできませんので、ご注意ください。**

作業のおおまかな工程



1. みがき作業

用意するものサンドペーパー（320、400、600、800、1000、1200、1500、2000番）、コンパウンド（細目、極細）、ウェス、みがき用パッド など

☆黄ばみや白濁がうすい場合は、1000番から順にみがいてください。 ☆黄ばみやキズによる白濁は、みがき作業時に完全に除去してください。（塗装作業では回復しません。）

①ヘッドライト樹脂レンズをサンドペーパーで磨き、**320番**のペーパーで磨き、キズや黄ばみ、白濁を消します。次に400番のペーパーでレンズ全体を磨き、旧塗膜を完全に除去してください。

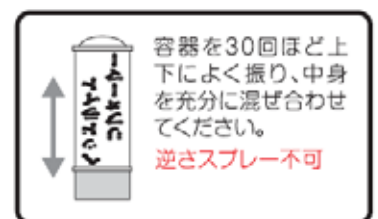
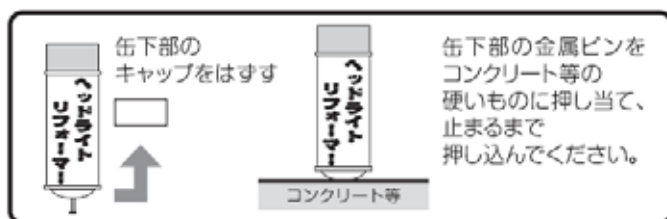
②さらに600番→800番→1000番→1200番→1500番→2000番とサンドペーパーの番手を変えて順にみがいてください。

③次にコンパウンドの細目→極細の順に磨き、ペーパー目が消え、透明感が得られるまで磨いてください。

④塗装面のホコリ、汚れを中性洗剤等（油分、シリコンを含まない洗剤）で洗い、よく乾燥させてください。

●旧塗膜が残っていると、密着不良やチヂミの原因となります。確実に表面を磨いてください。

2. 塗料の混合方法 ★**塗装する直前に行ってください。**



3. マスキングなどの準備

用意するものマスキングテープ、新聞紙 など

○ヘッドライト樹脂パーツ以外の部分には、塗料が付着しないよう、広めに車体や周囲をマスキングしてください。

●通常の塗料より、密着力が強いので、補修箇所以外の付着には、十分ご注意ください。

4. スプレー塗装

用意するもの手袋、マスク、ゴーグル など

○マスクをして塗料やガスを吸い込まないようにせよ。直接皮膚に付着しないよう、手袋を着用し、皮膚の露出が少ない服装で作業してください。○メガネをご使用の方は、付着の恐れがあるので、ゴーグル等を着用してください。●周囲の人や他の物にかからないように作業場所と十分な距離をあげ、風向きに注意してください。

①塗装面より20cm～30cm程度はなして、スプレーを平行に動かしながら、ヘッドライト樹脂パーツの表面全体にスプレーしてください。

②全体を薄めに、10分間隔程度で、3～4回に分けてスプレーするときれいに仕上がります。

③噴射口（オレンジ色部分）を、90度まわすと噴射パターンがタテ楕円からヨコ楕円に変わります。塗る面や形に合わせて使い分けてください。

5. 仕上げ・ツヤだし

用意するものサンドペーパー（1500、2000番）、コンパウンド（細目、極細）、ウェス など

☆塗装表面にざらつきなどがある場合は、完全乾燥後に仕上げ作業を行ってください。

①サンドペーパーに水を十分につけてみがきます。1500→2000番の順で軽くみがいてください。

②次にコンパウンドでみがきます。細目→極細目の順にペーパーのキズが消えるまでみがいてください。

作業上の注意

●塗装間隔が長い場合は、目詰まり防止のため、缶を逆さまにして1～2秒空吹きし、噴射口をよく拭いてください。

●使い終わった用具などは、初期硬化（約30分以内）する前にラッカーうすめ液で洗ってください。